

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

春季彼岸会並降誕会法要
しゅんき びがんえ
ごうたんえ



新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。今、国をあげて、ワクチン接種を加速させ、なんとしてでもオリンピックを成功させようと頑張っています。次々と変異種が出てきたりしており、うまくコロナが収まるかどうか判りません。

ところで、人間が自分の自由を犠牲にしてまでもコロナを恐れるのは、結局のところ、感染によって死ぬかもしれないという死への恐怖からでありましょう。しかし、「死の縁、無量」であって、コロナばかりが死をもたらすわけではありません。コロナの死亡率は2割弱だそうです。人間の死亡率は100割であります。何によるかは判らないけど、必ず死ぬことだけは間違いありません。

そうであれば、死から逃れる方法についてばかり考えるのではなく「いつか必ずやって来る『私の死』について考えてみるべきではないでしょうか。そして実は、仏教は、お釈迦さまが「死」を恐れ、「死」を超える道を求めたところから始まりました。仏教とは「死」を超えて「死」の恐れから解放される教えなのです。

私たちの頭（意識）では、死んだら終わり、としか思えませんね。つまり、生きている時だけが「私」であり、死んだらもう「私」ではない。ところが、お釈迦さまは「死んだら終わり」というのは、自我意識による「（虚妄）分別」であり、命の事実を背いた「妄想」であることに気づかれました。

命は、自分だけで生まれ、自分だけで生きているのではない。生まれ変わり死に変わりして連続無窮する流れとしてあるのであり、他の命と縦横無尽に繋がった広大無辺な繋がりとしてあるのであり、それを「阿弥陀（無量寿）の命」と言います。命が連続無窮の流れであったからこそ私が生まれたのであり、命が広大無辺の繋がりであるからこそ今日ここに私が生きることができているのです。

意識をもつ人間だけにある死の恐れ。人間以外の生き物は、動物も植物も命のままに生き死にしています。コロナに感染しないよう気をつけながらも、腹の座りは、生きるも死ぬも御仏の御掌の中と安んじて、天地の真ん中を大手を振って歩みたいですね。（釋知道）

春季彼岸会 並びに降誕会 法話

ユ・ヨンジャ
俞漢子先生

どうくどうしん

同苦同呻

ー共に苦しみ、共に呻くー



私の国籍は浄土です

ユ・ヨンジャと言います。

もうすぐ72歳になります。実は、今日は二人目の子供の母になった記念日なんです。自分の意志を超えた有難い出会いですね。また、20歳を待たずに死んだ友達がいいます。その人達のことを思うと、今ここにいることが奇蹟です。

私の国籍は大韓民国ですが、北も南も含めて朝鮮半島と言うでしょ。朝鮮も韓国も一つの国です。私は日本で生まれて、日本語が母語です。「国籍は？」と聞かれることがあります、真宗の教えに出遇った時、「国籍は浄土です」と言い切ったんです。私は親鸞聖人の言葉に感動して、真宗

の教えの前に立ったのです。

私を仏教の前に立たせてくださったのは玉光順正先生。そして「一緒に学んで生きていこう」と教えを説いてくださったのは梶原敬一先生です。生きる道しるべをいただきました。20年経ちます。自分の人生は自分自身では完結できない。他者と出遇って、自分を発見していくのだと思います。

未来の子に恥ずかしくない生き方をしたい

未来に何を託したいか、どういう未来を描くことができるか、それを次の世代の人々にどうやってバトンタッチできるか、これが私が今ここに生きている意味だと思っています。私達は過去から問われ、未来から

問われている今を生きています。

私は三人の子供のお母さんになって、生きてこれれたなと思っています。今日は娘の誕生日を祝っていたのだと、胸がジンとしたんです。娘は友であり同性の分かち合える存在です。私の話や文章は子供達へのラブレターです。

今ここでバタツと倒れても悔いはないけど、欲が出るんですよ。順調にいけば、四月にお婆ちゃんになるんです。コロナという大変な時代に生まれてくる命はい

としい。産着を見た時、忘れていた感覚がよみがえってきて、何億という人類の中で、その子を選んだわけではないんだけど、うち達の所へ来てくれるんやな、たった一つの大事な宝やなと思った。その生まれてくる赤ん坊に恥ずかしくないように生きたいです。

死者と共に生きよう

私の友人は16歳の時に北朝鮮に帰国しましたが、肅清されたと思っています。権力に批判の声を上げると生

きていけない社会が確かにあった。だから、生きようとしても生きられなかった命の全てをひっくり返して、「死者と共に生きよう！」とメッセージしたいと思います。

アウシュビッツの悲劇を生んだドイツのワイツゼツカー大統領が世界の若者達に贈ったメッセージは、「ドイツは間違ったことをしてしまった。ドイツ民族の人として、これから逃れることはできない。世界中に認められるまで未来永劫謝り続けるしかない」という内容でした。

私は植民地になった朝鮮半島をルーツにもつ人間として、うらやましかったです。同じ時期、中曽根総理は靖国神社にお参りしました。でも、真宗のお寺に出会った時、そういう話をしてくれた人達がいたんです。それで私もこの教団の一員となつて、一緒に荷負つていこうと思いました。

真宗の教えに出遇つて、自分の頑なな思いを解きほぐし、卑屈になつていた自

分を取り戻すことになったのだと思います。今日のテーマは「同苦同呻」だけど、本当は悲しむということだと思う。悲しみが足りないと思うんね。

「足るを知る」社会を

三番目の子が五年生の時に、「お母さん、僕は早く死んだ方がいいですか」って言うんですよ。環境がこんなに悪くなったのは人間のせいだって、先生から聞いたんですね。排気ガスを出し、オゾン層を破壊して、虫や動植物が困ってるって。私はその子を抱きしめて「そうやな、人間は大変やな。だけど人間に生まれたからには人間の責任というものがある。しっかり生きなきゃな」と言ったら、それ以上質問しなかった。

今、沖縄は観光客がいなくなつて、海が本当に美しいですよ。環境と観光をどう結びつけるかが課題ですね。私はこの経済の問題を、仏教で学んだ「足るを知る」「足るを学ぶ」という感覚で対処したら、と思うんです。そんな政治家を国会に送ら

ねばなりません。

浄土はどこに在るのか

言いたいことはただ一つです。「一緒に生きていきましょう!」。一緒に生きるとはどういうことか。私は長生きして、この国がどういう方向に行くか見たい。これからの若い人達が誇りをもって、大切に慈しむような国になるように。でも、ますます悪くなっていくように感じるんですよ。私達の浄土はどこに在るんですか? 死んでから往く浄土でいいですか? 浄土を俱会一処といえます。生きてる間にそれを感じたい。

従軍慰安婦の問題でも、

「いつまで謝ればいいんや」とか「あの人たちはねだりすぎじゃないの」とか言われます。でも、あの植民地時代に生き抜いた女性たちの生の声をしっかり聞きましたか? おばあちゃんたちは金銭でやってるんじゃないんです。「同じ失敗しないように、今の日本の若者が心配で、名を名告りました」と言っていました。

たった一人の人間が何を言っても、時代は変わらないかも知れない。でも変わっていくのは、たった一人からです。だからひとまず嫌なことは「嫌!」と言おう。皆が一つの方向に行く時に、違う意見を言える人に出遇うことが大事だと思う。

同苦同呻

人は生きている間「同苦同呻」です。お念仏って、人を生かしてくれるものやと思う。苦悩から脱却して幸せになれるというのはウソです。苦悩と共に「同苦同呻」しながら生きていく力、仏法力が湧いてくるんじゃないでしょうか。

私、元気づぼくしてるんです。その「ぼく」はどこから生まれるかというと、ここに立った瞬間に、この美しいお莊嚴を見、皆さんの顔を見たときに、ああ一緒に生きていく御同朋御同行がここにいらっしやる

と実感するからです。私の住んでいる沖縄の読谷村は、集団自決もあった場所です。今はとてもい

い所ですけど、沖縄の小学五年生がこんな手紙を新聞記者に送ったそうです。「沖縄は基地だらけです。そのことを本土の人々は知っているんだらうか。どうしたら本土の人々に解ってもらえるんだらうか?」と。記者が少年に答えました。「君は十分に頑張った。これからは僕たち大人が頑張るから、君は安心して勉強しなさい」と。戦後75年、子供達に申し訳ない。

阿弥陀さまの願い

私達の想像力を、戦争が起きたらどうするかでなく、戦争を起こさないために今どうするか、に向けるべきです。それを考えるのが私達の仕事です。

私は阿弥陀さまの願いは平和だと思う。浄土真宗は平和そして平等を説く教えです。教団が戦争に加担した傷もあります。それを解放して、二度と戦争をしない国にしていく、一緒に苦しみに一緒に呻くことが、基地あることを憂いた小学生に伝えることだと思います。

ヨンジャさんのお話を受けて、向野順子さんが、幼い頃満州から引き上げてきた体験から、今生きているありがたさと、「戦争ホーキ」作りをして平和を祈っていることを話されました。それに対してヨンジャさんから「有り難いとか、感謝とかで終わらずに、もう一歩進めて、「私たちの願っている平和をしっかりと実現する政治をしてください」と一筆をえて、その戦争ホーキを政治家の方々にぜひ送って下さい。一緒に頑張りますよ」との答えをいただきました。

聞き書き担当者感想

テーマからして逃げたくなるような思いでした。「苦悩の有情をすてずして」と、真つ先に苦しみ呻く人を見いだされる阿弥陀仏の慈悲を身体いつばいに受けて語って下さったのだと思います。有り難うございました。

(藤谷純子)

リモート配信で法話を聞いておられた娘の鄭匡賀さんが感想をメールで送って下さいました。ほんの一部ですがご紹介いたします。

読谷村では、4月2日はアメリカ軍が上陸してきた翌日にあたり、チビチリガマに避難していた85名の住民が「アメリカ兵に捕まるくらいなら」と死を選択し、命を絶ちました。自らの家族を自分の手で殺し、自ら死ぬことでしか生き延びる方法を見いだせなかった日、これが沖縄戦の一部です。

……だから、今日は自分の誕生について、命について考える日です。生まれたこと、今日を生きていること、そして私を迎えた両親へ感謝する日です。

……今日の配信、関わったすべての方に心よりお礼申し上げます。皆さまがいっぱい笑って、今日のご飯もおいしかったね、と言って安心して眠れる毎日でありますように。

有り難う御座居ました。

ご門徒さん こんにちは！ 第二十回

今回は勝福寺寺報『ひびき』が百号になったのを記念して坊守さんをおたずねしました。

坊守さんは在家の出身ですが、お寺に嫁ぎ、お寺に入って戸惑ったことがありましたか？

私は住職と同年で今72歳、33歳で結婚しました。結婚してから京都で3年半暮らし、36歳で二人の子を連れて四日市に帰りました。

最初に感じたことは金箔が塗られた本堂が厳めしく権威的に感じて、すごく抵抗がありました。在家に育った者には余計にそう感じられました。お寺へ来てどのくらい経っ



てからか、お仏飯を上げる時に、阿弥陀様が立たれている蓮台の下に獅子が彫られているのですが、天邪鬼みたいな顔をしていて、ある時それと目が合って、「ここにお前がいるぞ、ようやく気がついたか」そういう声でしたのです。ご本尊の下で人を喰ったよう

僧伽に生がされて

藤谷 純子

な顔をして、この本堂に自分が居ると思ったら、自分に会いに行くみたいで抵抗がなくなりました。おかしいですね。

坊守さんの家族構成や家庭の様子を教えてください。

親鸞聖人と縁の深い茨城県の笠間の出身ですが、家は曹洞宗の檀家です。兄妹は四人、一番上に10歳上の兄、そして

姉が二人、私は末っ子です。両親は共に90歳を越え、兄は80歳で亡くなりましたが、姉二人は存命中です。

父は高校、母は小・中学校の教員をしていました。四人の子供を学校にやらねばならないので共稼ぎをして一生懸命でした。

母は気の強い人で、ある時私が「お母ちゃん、子供が全部遠くに行っちゃってしまっているの？」と聞くと「いいんだよ。

たので、子供には教育が必要だと思っていたのでしょう。でも子供に勉強の押しつけはしませんでした。行きたければ行かせる、ということでした。頑張りて四人を大学に行かせてくれました。



坊守さんは、金沢大学に入学したことがその後の人生に大きな影響を与えていますね。

大学浪人中、自分の人生をかえりみたとき、人生をもう一度やり直したい、そんな思いが起きてきて、「人間世界が真っ白に浄化されている雪国」に憧れました。それで金沢大学に入学しましたが、毎

日の生活は「ひもじく、けだるく、さびしく、むなし」ものでした。

当時の私は誰とも関係が出来ない、自分だけの殻に閉じこもっていました。

大谷専修学院に行くようになったきっかけは？

そういう時に、私を仏教に導いてくださった出雲路先生と出遇ったのです。先生から「あなたは自分をもてあましているんですね。自分なんて無いんですよ」と言われ、先生のその言葉に言い当てられて、その後、研究室を訪ねて行くようになりました。先生と話す私の問題がはつきりして、気が重くなっていたても、何で気が重くなっているのかはつきりするのでした。

出雲路先生と、信国先生の『正信偈講義』と一緒に読むようになりましたが、読んでも一向に満たされない。それでとうとう「私は仏教の勉強はもう辞めます」と申しました。先生は「本を読んだりしてもどうにもならない所に来ているんだね。じゃーお念仏を申してみませんか」と言わ

れ、先生が「なんなんだぶつ、なんなんだぶつ」と両手を合わせて称えました。「あなたには、これがそらぞらしく見えませんか？」と聞かれ、私は「そらぞらしくはないけれど、私が念仏を申すなんて不自然です」と答えたら、先生は「お念仏を申すようになるまで、もう私の所に来ないで下さい」と言われました。これで新しい生活への試みも終わつたと、トボトボと大学の坂を下りたことを覚えてます。

しばらくして先生から呼び出しがあり、先生にお会いすると、先生は専修学院のパンフレットを持ってきて「ここに1年間行つて『自己とは何ぞや』ということをしっかりと腰を据えて学んで来なさい。そこには熱心な僧伽があるからそこで学んで来なさい」とおっしゃいました。

学院での思い出と卒業後はどうしてましたか？

やがて、私が自身を生きたれないで、さ迷ってきた問題について、その闇が晴れる時に恵まれました。それはこういう言葉からだった。「あな

たは、こんな自分は生きる価値がない、資格がないと自分をいじめつけている。それは高峯に造花を咲かそうとするあり方ですよ。どんなに美しくてもそれは造花です。自然の花は大地にしっかりと根を下ろしてこそ花開いているでしょう。お念仏申すところから新しい生活が始まりますよ」

「ただ生きよう」としているのちに、高上がつた要求ばかりをつきつけて傷つけてきた私が照らし出されました。

こういう信国先生との出会いから、不思議にも私の身にお念仏申すことが始まり、いのちを生きたる喜びを感じました。「すべてのいのちは、それを愛そう愛そうとする者のものであつて、それを傷つけよう傷つけようとする者のものではない」という真実を、南無阿弥陀仏と申すことで憶念していく新しい開法の生活が始まったのでした。

学院を卒業してからは休学していた大学へ戻り、大学卒業後ふるさとの茨城県で高校の教員を7年間しました。

結婚するきっかけは？

信国先生の一週忌の時に、学院の児玉先生から「結婚する気はあるのか？」と聞かれたので、私は「ご縁があればします」と答えた。「それなら今呼んでくるから会つてみないか、ここで待つときなさい」と言われた。その人が知道さんでした。

私はわがままな人間だけども、知道さんは優しそうな人で、お寺に行けば開法ができる、開法を忘れても、そんな自分を見直せる、それに宇佐は信国先生に縁のある土地でもあるしと、そんなこともあつて知道さんとの結婚を決意しました。

坊守になつてどんな暮らしをしてきましたか？

40歳の時に住職継承式がありました。その表白の中で知道さんの「この宿業の身のまに、南無阿弥陀仏と念仏申しつつ、如来のお育てを日々に新たに受けて、この勝福寺が、いよいよ如来の恩徳を讃嘆する僧伽となつていくよう、有縁の皆様と共に歩んで参ることを誓います」という誓いを聞いて、「私も坊守となつて共に歩みたい！」とそんな願いが起こり、すぐに本山へ坊守登録をお願いしました。以来早32年も経ちましたが、門徒の皆さんと本当に出会えてきたのかと顧みると恥ずかしいばかりです。お布施によつてお寺に暮らしておりながら、それにどう応えてきたのか？とても応えられていません。

ただお寺を場として、いろんな方々がそれぞれに人生を抱えて生きていく姿に出遇うことに、大きな意味を感じています。まして死という一大事を縁として互いに生きることが学ぶことが多いです。幸せよりも、悲しみや苦しみを縁としてお念仏申さずにおれぬのが人間の身だということを、寺という僧伽において教えられています。

残り少なくなりましたけどご門徒の皆さんと「ナン

マンダブツナンマンダブツ」と声を合わせられるようになりたい。これが私の今の願いであり、目下の悩みですね。

坊守さんの真摯な考え方や生き方を聞きながら改めて頭が下がる思いでした。文責 渡辺 重昭

「ご門徒さんこんにちは」一覧表

100	99	98	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	ひびき No. ご門徒 さんNo.
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
藤谷 純子	松本 順・知代	渡辺 綱義	渡辺敬二・玲子	大久保清・春枝	上城 義信	藤谷 彰子	佐々木 ノリ子	堂本 光男	渡辺 浩晃	外園 ミツエ	若林 範子	渡辺 輝幸	麻生 民子	渡辺 美佐子	渡辺 末子	外園 治子	後藤 アヤメ	加来英司・周子	向野 茂・順子	名前
勝福寺	宇佐市大塚	四日市新町	四日市蛭子町	中津市三保	山香町	勝福寺	宇佐市山本	四日市小菊町	四日市東新町	四日市常徳	柳ヶ浦	四日市上町	四日市寺山	四日市上町	四日市常徳	中津市	宇佐市大塚	院内町北山	院内町新洞	住所

ちよっと、お邪魔します！

今号より、お寺へはまだ足が向かない、そんなご門徒さんに、今の気持ちを聞かせいただくシリーズを始めていこうと思います。

第1回目は、四日市の渡辺元聖さんです。



◆ご家族は？

妻と子供二人です。

◆お子さんは？

姉は幼稚園の先生、弟は会社員です。

◆子供への願いは？

幸せな家庭を築いてほしいですね。

◆仕事は？

今年65歳になり、二回目の定年になるけど、70までペースを少し落として働こうと思っています。

◆奥さんは？

仕事が忙しかつたので子育ては妻に任せきりでした。10年前に多系統萎縮症という難病になり、今は寝たつきりで話すこともできない状態。辛かろうと思うけど、いつも笑顔で、涙を見せたことが



◆家では？

お仏飯はご飯を炊いたときだけ。でも毎朝、お茶をあげて、ナンマンドブツと唱えます。それから

あれこれお願いしているの、「今日も一日、よろしく」とお参ります。たまにですが、心が安らぐ時があります。

◆阿弥陀さまについて？

あまり考えたことがないですね。みんなに掌を差し伸べて助けてくださる

仏様かな。

◆今の世の中をどう感じていますか？

スーパで働いていますが、昔は謝ったら、それで話がすんだんだけど、今は、話を通じない人が増

他力

第1回

生活の中の仏教用語

野球でも相撲でも、ひいきのチーム（力士）が負けた時、「自力優勝がなくなった。あとは他力本願だ」と、よく耳にしますね。「自力」「他力」

は仏教用語ですが、意味するところは全く違っています。仏教では、「他力」とは私たちの思いを超えた仏さまの「本願」のはたらきや力を用いるのです。「他人任せ」ということではありません。

親鸞聖人は「他力」というのは、**如来の本願力なり**」（聖典一九三頁）というお言葉で確認してくださっています。「正信偈」に「帰命無量寿如来 南無不可思議光 法蔵菩

えてきました。人間の心がすさんできてい るように感じますね。

◆お寺にも来てくださいますか？

…… そうですね。

薩因位時」とうたわれているように、阿弥陀如来がまだ因の位の法蔵菩薩であった時に、すべての苦悩の衆生を助けたいと、長い長い間ご苦労をして浄土を建立し、必ず衆生を往生させると誓った阿弥陀如来の本願力のことです。

榎本栄一さんには「朝」という詩があります。

自分がどれだけ

世に役立っているかより

自分が無限に

世に支えられていることが

朝の微風の中でわかってくる

ながい人生を歩まれた方の深い感想ですね。

また、清沢満之先生は「我

らは絶対的に他力の掌中に在るものなり」と言い遺されました。

私たちは自分の力で生きていくように思いがちですが、本当は、生かされてこそ生きている、のです。

編集後記

★勝福寺寺報は知道、純子が勝福寺を継承した一九八八年に第一号を出して以来、今回で一〇〇号となりました。はじめは住職と坊守で編集していましたが、第79号より渡辺重昭・渡辺和義・香田紀子・松本知代の4名に編集に参加していただきました。百号も続いたのはご門徒の皆さんのご参加があったからです。これからも僧伽の機関紙となっていくよう、編集委員一同努力してまいりますのでよろしくお願いします。（藤谷知道）

★一〇〇号を機会に「ひびき」の編集内容を少し変えてみることにしました。その一弾が「ちよっとお邪魔します」です。なかなかお寺でお目にかからないそんな方のご意見やお話を聞きたい。そんな思いからです。★また、「真宗門徒の豆知識」に変えて「生活の中の仏教用語」を連載していきます。★「ご門徒さんこんにちは」も20回を数えました。一覧を載せていますが、中にはお浄土へ還られた方もいらっしゃいます。今後も皆さまのところに話を聞きにお伺いします。よろしくお願ひします。（渡辺重昭）